

令和5年11月14日（火）

わからない問題は、解説を読んでから先生に聞きましょう

自分でワークなどに取り組んでいる際に、わからない問題が出てくる場合があります。そんなとき、何とか自分で解けないかと粘りたくなる気持ちもわかりますが、わからないことで悩んでいるのはもったいないです。先生に聞けるものであれば、是非聞きましょう。

しかし、先生に聞く前に、自分の力を伸ばすポイントがあります。それは、先生に聞く前に、一度自分で答えと解説を、しっかり確認することです。このステップを踏むことで、ただの「わからない」が「解説にある○○の部分がわからない」に変わります。わからないところやその理由が自分にもだんだん見えてきて、先生にも具体的な質問ができるようになってくるのです。

自宅でワークの丸付けをするときも、ただ○とか×とかを付けるだけでなく、その間違った問題の解説をよく読んで、つまづいたところをきちんと確認してください。

私も、過去の経験から、「先生、この問題がわかりません」と発言していた生徒は伸びにくく、「この問題のこの部分は、なぜこうなるのですか」と具体的に聞いてくる生徒は伸びると感じていました。

どんな問題も、解けないのには理由があるはずです。解けない理由を理解しないと、先生に教わっても、またすぐ「分かりません」となってしまいます。

「何が分からないかが分からない」では、手のうちようがありません。しかし、自分でつまづいているポイントが分かれば、解決策や対策が自分で打てるようになります。そして、分からないが分かるに変わっていきます。